

UGSAS-GU NEWSLETTER

岐阜大学大学院連合農学研究科

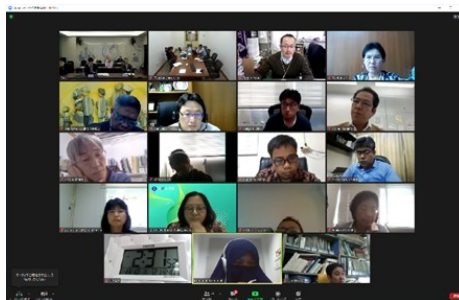
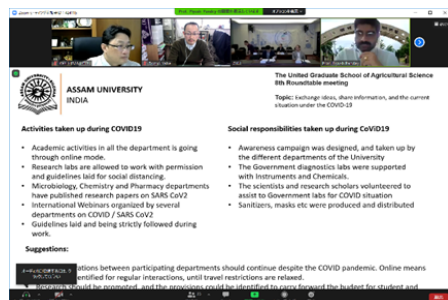
2020年1月～12月

第8回 国際会議 (オンライン 11月10日)

International Roundtable Meeting

岐阜大学大学院連合農学研究科(博士課程)は、11月10日(火)に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校(日本を含む南部アジア地域9カ国20大学)(以下、IC-GU12という)による「The 8th IC-GU12 Roundtable 2020」(第8回農学系博士教育国際連携円卓会議)(以下、ラウンドテーブルという)を、オンライン(ZOOM)開催しました。

本ラウンドテーブルは、2012年に第1回を開催以来1年に1度開催され、IC-GU12加盟校の代表者が、教育、研究についての現況と課題について幅広く情報交換を行っています。今年度は「コロナ禍における教育の提案と各大学の対策」をテーマにそれぞれの大学が新型コロナウイルスの流行前後でどう変わったか、今後どのような方針をとる予定かについて話し合いを行いました。15大学約40名の教員により、各国の状況と対策を交流し、研究科として今後の方針を考えるうえで有意義な会議となりました。



NEWSLETTER(電子版)

第9号発行にあたり

2020年4月より岐阜大学大学院連合農学研究科長を拝命いたしました。まだ不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思えます。どうかご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。さて、世界を混乱に陥らせているコロナ禍の影響は本研究科でも小さくありません。入学予定者が入学時期を延期せざるを得ないようになり、海外でのフィールド研究などが滞ったりするなど、様々な局面で困惑しているところです。そのような中でも11月には南部アジアにおける協働教育コンソーシアム(IC-GU12)のラウンドテーブルを遠隔会議システムで開催したところ、加盟校から16大学もの参加があり、with CORONA下での教育や国際交流について活発に議論を行うことが出来ました。コロナ禍でやむを得ず実施してきた遠隔講義ではありましたが、協定校との講義やゼミの交流には有効である手段であることが分かり、今後は一層共同教育の仕組みが進んでいきそうです。また、IC-GU12を中心とする国際教育連携が着実に根付いてきていることを実感させてくれる機会となりました。さらに、12月には文部科学省より、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの採択を頂き、協定校より優秀な学生を受け入れる仕組みを継続することが出来ることになりました。本号では、国内外で活躍する皆様に、本研究科の特色のある活動を紹介いたします。本研究科の発展と新しい展開に対して貴重なご意見をいただければ幸いです。

岐阜大学大学院連合農学研究科長
平松 研

(Signature)

ポスターセッション (オンライン 11月10日)

UGSAS-GU&BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences

ラウンドテーブル終了後は、本学流域水環境リーダー育成プログラムと共催にてポスター発表を行いました。こちらもオンライン(ZOOM)での開催となりましたが、IC-GU12の教員や本学修了生など約40名が聴講のもと、3セッション学生20名による発表が行われ、優秀発表学生5名にポスター賞が授与されました。

ポスター賞受賞者

Muhammad Arifin: D2
Cicili Sugianti: D2
Haoliang Cai: D2
Shiamita Kusuma Dewi: 水環境リーダー
Wenjiao Li: 水環境リーダー



第5回 ICCC (オンライン 9月24日)

The 5th International Conference on Climate Change

大学院連合農学研究科(UGSAS)は、スプラズ・マレット大学 (インドネシア)、ウダナ大学 (インドネシア)、Waterpedia(オランダ)、Indonesia Expert Network for Climate Change and Forestry(APIKI/インドネシア)、The United Nations Framework Convention on Climate Change(UNFCCC/Germany)と共催し、令和2年9月24日(木)にオンライン(ZOOM)を利用し、「Lessons Learn from Covid-19 Pandemic for Climate Change Adaption and Mitigation Strategies」と題し、第5回 International Conference on Climate Change 2020(以下 ICCCという)を開催しました。

本研究科からは、平松研研究科長、田中貴助教が参加し、平松研究科長より開会の挨拶、田中助教が「コロナ禍における食品流通の変化と対応」について基調講演を行いました。ICCCには基調講演者8名のほか、パラレルセッションでのべ190名が発表を行い、参加者による活発な議論が行われました。

ICCCは今年度で5回目を迎え、気候変動が人間生活や環境問題に与える影響をモニタリングし、改善するための努力を継続して行っており、環境、農業、法律、社会、経済、文化など様々な視点から気候変動に関する課題が議論されました。また、今年は新型コロナウイルスの流行が気候変動に及ぼす影響についても話し合われました。これらの成果は論文として取りまとめられ、現時点で、117編が提出されました。このうち、92編はIOP、7編がJournal of Sains Tanah、5編がIndonesian Journal of Geography、2編がIndonesian Journal of Biotechnology、6編がAgrivita journal、そして5編が※RASにて公開される予定です。ICCCの成果が研究者、技術者による気候変動研究の発展に大きく貢献することを期待します。

※Reviews in Agricultural Science…連合農学研究科によって2013年に作られたオンラインジャーナル



連合農学研究科 学位記授与式

3月13日、9月18日に、岐阜大学講堂にて学位記授与式が挙行されました。

2020年3月～12月の学位記授与者数:

3月 12名 (うち留学生5名)
6月 1名 (うち留学生1名)
9月 16名 (うち留学生15名)

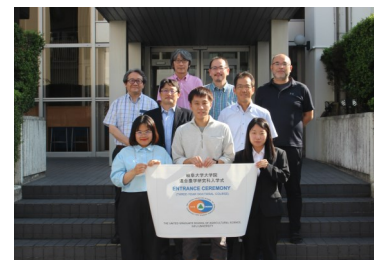


連合農学研究科 入学式

2020年度入学式は4月入学生・10月入学生合同で10月2日に挙行されました。

2020年度入学者数:

4月 16名 (うち留学生2名)
10月 2名 (うち留学生2名)



岐阜大学



静岡大学

【受賞一覧2020】

●山下寛人, 内田知希, 片井秀幸, 川口利奈, 永野惇, 森田明雄, 一家崇志 (2020). チャ種内の成分形質に関する遺伝的多様性およびゲノム変異との関連解析. 第35回茶学術研究会講演会. 学術奨励賞.